

## ものことば

あなたは「ものことば」を読んで、この文章から何を受け取ったか？

この問いは「この文章は何を言いたいか？」という問いではない。「この文章は何を言いたいか？」という問いの答えはたった一つしかないように思われる。しかし、「この文章から何を受け取ったか？」という問いには「受け取る側の自由」がある。文章は言いたいことが伝わらなければ価値がない。究極的によい文章というのは、全ての人に伝達者（作者・著者など）の言いたいことが同じように伝わることだ。しかし現実はそのとはいかない。ある文章が受け取る人によってあまりにも受け取られ方が違う場合は、その文章は下手な文章だということになる。



(一)ものに名前がなければ、全てのものを同じものとして認識してしまうと思った。改めて認識

という言葉を考えさせられた。

(二)ものを呼ぶ言葉はいくつもあって、別の意味にもなるけど、ものと言葉は一つで一つだと思

う。

(三)ものというのは名前を付けられてやっと人間が扱うことができる。

(四)ものには場所と環境で言葉の言い方が違

けど、ものとしては何も変わらないということ。

(五)「もの」の全てに名前があるがその「もの」の作用のしかたで「言葉」のとらえ方が変わってくるということ。

(六)ものに言葉を与えるのではなく、言葉にものを与えること。

(七)言葉というのはそれだけでは世の中に存在できない。ものがあってそれを認識できるようにするとき初めて言葉が存在する。

(八)同じものでもいろんな名前があって、同じ名前でもいろんな形がある。

(九)言葉には唯一これしかないものがあると、いろいろなものが含まれているのがわかる。それを細かく分類するときりがないほどぐちゃぐちゃになる。

(一〇)ものの言葉からは素材の性質や一つ一つのものの名前など詳しい情報がわかるということを受け取った。

(一一)自分の周りにあるものは意味や言葉が存在している。

(一二)普段何気なく生活している中で、ものがたくさんあり、そのものの名前もたくさん呼び方や、国の言葉の違いがあると感じた。(中略)それぞれの国での呼び方の違いに、不自然を感じた。

(一三)「机」には多種多様なものがあり、国によっても表現方法が変わってくる。つまり、言葉や

ものの一言は不特定多数のものを指す。

(一)ものにはそのものを示す言葉が複数ある。

(一五)一つの言葉で数種類の意味があり表現できるということ。

(一六)同じものでも自動車の場合なら、ただ単に自動車というものの言葉と、自動車を構成する部品一つ一つが合わさったものという二つの取り方がある。

(一七)ものには、言葉を使ったたくさんの方の名称を持っている。世界だとまた違った言葉が使われている。ので、国によって同じものでも言葉が違ったりしているのだと思った。

(一八)言葉には力があって渾沌としている。

(一九)言葉で表すときともので表すときと比べて種類も多くなりまた、国によって表し方や意味の違いによってものと言葉の関係も違ってくることもわかった。

(二〇)言葉は沢山あり、使い方や伝わり方は時と場合により違う。

(二一)この世界にあるものについている名前を生活している上で考えながら生活していくことが大事。

(二二)その言葉あつてのもの、ということ。

(二三)ものには必ず名前がある。

(二四)やはりものはなくてはならない存在なんだなと思った。

(二五)考えれば考えるほど先が見えなくなるようなことを一つの評論文にまとめた鈴木孝夫氏はこの評論文のように数えきれないほどたくさん

の考えがあるに違いない。

(二六)言葉の本当の性質を書いていると思った。

(二七)日本語は複雑だが、それゆえに伝わりやすい。

(二八)言葉と言語の不思議。

(二九)ものと言葉の意味を考えると、奥が深い。

(三〇)カブトムシの中には山田さんという奴もいるかもしれない。